

神道学科の3つのポリシー

教育研究上の目的

神道学科では、大学の目的(学則第1条)、文学部の教育研究上の目的(同第3条の2)に加えて、以下の目的(同第3条の2)を定めています。

日本人が守り伝えた民族固有の信仰であり日本文化の根源である神道を、祭祀学・古典研究・神道史学・神道思想・宗教学などの分野を通して教育・研究するとともに、将来、現代社会の諸課題に真摯に対応できる神職をはじめ、各界において指導的な役割を果たす人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

神道学科では、大学全体(学部全体)の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に加えて、以下の方針を定めています。

1. 神道の祭祀・古典・歴史・思想について幅広い知識を身につけて、日本の伝統的な神観念・人間観・世界観を理解し説明できる。
2. 日本の歴史・伝統・文化について理解を深め、その特質を説明できる。
3. 神社祭祀の概要を理解し、皇室・神宮・神社の祭祀について、その歴史や意義を説明できる。
4. 宗教学の基礎を身につけ、宗教史をふまえて日本の宗教事情や神道と諸宗教を比較し、的確に説明できる。

カリキュラム・ポリシー

神道学科では、大学全体(学部全体)の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に加えて、以下の方針を定めています。

- 【1】教育内容については、次のとおり定める。**
1. 祭祀学・古典研究・神道史学・神道思想・宗教学の分野ごとに科目を設置する。
 2. 各分野に関する基礎的・体系的な知識を段階的に修得するため、概論的科目を1～6セメスターに配置する。
 3. 関連諸文献の読解力をさらに高め、専門的研究方法と知識を身につけるため、1～6セメスターで「講義」科目と「講読」科目を学び、3～4セメスターの「基礎演習」科目と、5～8セメスターの「演習」科目に接続する。
 4. 神道・宗教文化コースを置き、5セメスターより、各演習(ゼミ)を選択する。演習は、祭祀学・古典研究・神道史学・神道思想・宗教学の観点から専門的な学びをより深める。
 5. 修学の集大成として、各自のテーマを定めて調査・研究・実習等を行い、個別指導のもとに卒業論文を作成する。また、専門科目の学修を通して、皇室・神宮・神社に関する精確な知識を学ぶと共に、皇室・神宮・神社を敬う精神を育む。
 6. 神職課程では、「祭式及び同行事作法」や「神務実習」等の所定単位を履修し、祭祀の斎行及び神社の管理・運営に必要な技能・知識を修得する。

【2】教育方法については、次のとおり定める。

1. 大学全体の方針に沿い、講義形式の他、アクティブ・ラーニング（主体的学修）やPBL（問題発見解決型学修）を取り入れた教育方法も実施する。
2. 各科目の評価は、大学全体としての共通の評価方針（アセスメント・ポリシー）に従って行う。また、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、厳格な卒業認定を行う。

アドミッション・ポリシー

神道学科では、大学全体（学部全体）の入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に加えて、以下の方針を定めています。

1. 神道や日本の伝統・文化に興味を持ち、それを学びたいと考えている。
2. 日本文化の歴史と伝統を理解し、その核心に触れたいと思っている。
3. 日本文化の伝統を継承し、後世に伝えたいと考えている。
4. 神職を志す強い信念を持っている。
5. 神道や神社に関する知識を生かし、伸ばしたいと考えている。
6. 高校時代に学んだ日本の古典や歴史・文化に関する知識を、さらに深めたいと考えている。
7. 世界の宗教・神話を学びたいと思っている。